

○ 生徒

- ① 検温
- ② 朝食
- ③ マスク着用

◆◆◆ 次の場合は、自宅での休養し、経過観察をしてください
 ① 発熱(37.0℃以上、または平熱より1℃以上高い)
 ② 生徒、または同居家族に風邪症状がみられる * 受診をご検討ください
 ③ 同居家族等が濃厚接触者に特定された
 検温結果をLTノートに記録してください

自宅

◎ 教職員

- ◎ 検温
- ◎ 朝食
- ◎ マスク着用
- ▼ 出勤後、名簿に体温を記入する
 - (1) 36.9℃以下 ⇒ 勤務
 - (2) 37.0℃以上 ⇒ 休む

学校

- 平熱で風邪症状なし ⇨ 教室へ
- 検温忘れ ⇨ 各昇降口で教職員が検温する

【在学中、生徒が不調を訴えた場合】

・発熱(37.0℃以上、または平熱より1℃以上高い)場合
 ・明らかな風邪症状が認められる場合

▼ 保護者へ連絡する

* 兄弟姉妹は、児童生徒の健康状態をみて保護者と相談する ⇒ 八町・松葉小と連携(9/5～市共通)

- ① お迎え可 ⇒ 親子で下校
- ② お迎え不可
 ⇒ 保護者了解のもと、下校する
 帰宅後、学校に連絡する【必須】
 * しばらく学校で休養することもある

- (1) 36.9℃以下で、風邪症状がない ⇒ 教室へ / 風邪症状がある ⇒ 養護教諭との面談で判断
- (2) 37.0℃以上(平熱より1度以上高い) ⇒ 保護者へ連絡・帰宅し休養

【終日における感染症対策】

- ① 常時開放 ・天窓(4か所) ・扉(2か所) ・運動場側の窓(2か所)を15cm以上
- ② 教室出入り口付近(廊下)ほか、校内各所にアルコール消毒ポンプ常設
 《必須》 ・登校後の入室前 ・給食前 ・集会后 ・清掃前 ・特別教室への入室前など
- ③ 休み時間(放課)は、窓を開放する
- ④ アルボース石けんでの手洗いを励行する。

◆ 自分が感染しないように気をつけるだけでなく、他者に感染させないような行動をとる。
 他者を思いやる心(=怒の心)で行動することの尊さについても考えたい。

- LTノート(検温結果記入)を担当に提出する

朝読書／朝学習

【健康観察の手順】

- ① 健康観察(目視、聞き取り)
- ② 健康観察版に記入
- ③ LTノートで検温記録を確認する
- ④ 養護教諭が健康観察版で全体を把握する

朝の会

- 校内でのけが…保健室まで生徒の付き添い

授業 1～4限

【授業形態】

- ◆ 学習時の生徒机間を広くとり、前面黒板の方を向いて学習することを基本とするが、学習効果を考慮した配席を適宜行う。
- ◆ グループ活動を行う際には、その回数や時間に制限を設ける。
 - ・合唱やリコーダー授業、調理実習 ・参加人数を制限する、隣人との距離をとるなど、感染症対策を万全にして授業を行う。
 - ・体育…密集や密接にならないように配慮する。 * 熱中症予防の観点から、運動時はマスクを外すように声をかける。
 - ・理科室・美術室・被服室・技術室…通常の配席で実施する。

- 手洗いと手指消毒をする
- 配膳台をアルコール消毒液で除菌する(担当生徒)
- 全員前を向いて、静かに食べる (黙食)
 * 会食中は不必要な発話を控える

給食

- ◎ おかわりの配食は教員が行う
- ◎ 食アレ対応を含み、生徒の安全管理・指導に努める

- 通常どおり活動する

授業 5～6限

- ◎ 健康観察【5限授業の教科担任が行う】

- 通常どおり黙動清掃を行う

BTT(話し合い活動)

- ◎ ねらいに応じて、机の配置を工夫する

- 清掃後は、アルボース石けんで手洗いをする

清掃

- ◎ トイレ消毒は教員が行う
- ◎ 生徒と一緒に活動する

帰りの会

- ◎ 健康観察

部活動

- ◎ 健康観察
- ◎ 帰宅後の手洗い等、声かけをする
- ◎ 教室や廊下などの共有箇所を消毒する

部活動 * 詳細は、各部の月予定参照
 ～感染リスクを考慮した練習方法を各部で工夫する～

自宅

- 石けんでの手洗い
- 「食事(栄養)、よい睡眠、軽い運動」で抵抗力をつける(=免疫力を落とさない)